

5月における麦類の病害の発生状況は以下のとおりです。
巡回調査(21 地点)は5月 15～17 日, 31 日～6月2日に実施。

○ 赤かび病

・5月 31 日～6月2日の巡回で発生が確認され, 大麦では, 発生地点率は 40.0%で平成(15.0%)よりやや高く, 発病穂率は 1.50%で平成(0.13%)より高い状況でした。小麦では, 発生地点率は 27.3%で平成(8.5%)より高く, 発病穂率は 0.27%で平成(0.12%)よりやや多い状況でした。

・多発すると減収するばかりでなく, 病原菌が産出するかび毒(デオキシニバレノール)が人畜に中毒症状を引き起こすおそれがありますので, 予防防除に努めてください。

穂の一部又は全部が褐色に枯れ, 穎の合わせ目や小穂の基部に淡紅色のカビを生じます。



図 1 赤かび病の発病穂(小麦)

○ うどんこ病

・5月 31 日～6月2日の巡回で, 調査 21 地点のうち1地点において, 発生が確認されました。

・春が温暖で雨が多く, ムギが早くから繁茂した年に発生しやすいので, 地域にあった適正な播種量と播種時期を厳守し, 窒素質肥料の多施用は避けましょう。



図 2 うどんこ病の病徴(葉)

注) 本写真は, 過去に撮影したのです。

○ さび病類

・5月の調査では, 発生は確認されませんでした。